

## 総合型地域スポーツクラブの今後の発展・普及に向けた一考察

A study on for development and spread of integrated sports club for the future

1K06B207

指導教員 主査 作野誠一先生

三浦 一宏

副査 松岡宏高先生

### 【序論】

近年、少子高齢化、核家族化、都市化や過疎化などの急激な社会変化などの様々な社会問題、それに加え、科学技術の発展や生活の利便化などによる日常生活の身体活動がますます減少させるとともに、精神的なストレスを増大させ、我々の心身に大きな影響を及ぼす生活問題などさまざまな問題がわが国では存在する。このような、人間の価値観や生き方などをも変えようとしている社会状況の中で、現代社会におけるスポーツの果たす意義、役割を考えたとき、国民のスポーツへの主体的な取組みを基本としつつ、国民のニーズや期待に適切にこたえ、国民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できるような、また、競技力の向上につながるようなスポーツ環境を整備することは、重要であると考えた。そこでスポーツ振興を支える存在として総合型地域スポーツクラブが期待されている。しかし、1995 年から文部科学省が総合型地域スポーツクラブの定着に向けて様々な施策を実施してきたが、未だにわが国に定着しているとはいえない状況に、筆者は総合型地域スポーツクラブの定着しない要因を 3 つ挙げ、地域スポーツクラブ発祥の地ドイツの地域スポーツクラブとの比較、大学生を対象としたアンケート調査を実施、考察した。本研究は、文献、アンケート調査により研究を実施し、わが国の総合型地域スポーツクラブの課題を明らかにすることを目的とする。そして、発展・普及に向けて今後の活動方針を提言する。

### 【研究方法】

本論は、わが国の総合型地域スポーツクラブの今後の普及・発展に向けて、現在わが国の総合型地域スポーツクラブが抱える課題を明らかにするために、わが国の総合型地域スポーツクラブの起源から振り返り、総合型地域スポーツクラブ発祥の地ドイツとの比較を文献などから考察することに加え、大学生を対象にしたアンケート調査を実施し考察した。アンケート調査は、大学生を対象とし直接配布して答えてもらうアンケート調査と大学生を対象にメールを送信し、返信をしてもらうメールによるアンケート調査を行った。そして、最後に全ての研究を含んだわが国の総合型地域スポーツクラブの普及・発展に向けて今後の活動方針について提言を行いたい。よって、本論では文献とアンケート調査により研究を行った。

### 【結果と考察】

本研究から 4 点の課題が明らかになった。総合型地域スポーツクラブの認知度の低さ、国民のスポーツに対する意識、わが国が学校スポーツで発展してきたこと、今後の展望へのアプローチのあいまいさである。わが国で、スポーツが文化として根付き総合型地域スポーツクラブが定着するためには、これらを解決していく必要がある。そのためには、現在のスポーツ行政は、文部科学省に「スポーツ・青少年局」があるが、障害者スポーツでは厚生労働省、運動公園の整備は国土交通省が関係するなど、縦割り行政であるので、これらを一つにするこ

とが必要である。

日本型地域スポーツクラブの将来像として、学校との連携を柱にしていくことを提言した。連携していく中で 文化 施設 人材 地域の4つのキーワードを挙げた。それぞれの中身は、「機会」・「場」の継続 「日本版ゴールデンプラン」 「人材の循環」 「地域住民」である。

最後に、今後の課題として、「国民のスポーツに対する意識改革」と「総合型地域スポーツクラブの認知度向上」この2点の広報活動をより有効的に大々的に実施する必要があると述べた。